

ぼいす



ソラ汽車、汽車と赤羽駅
先づはお勞れをステーション
お寿司はよしか味わいも
極上等のお弁当…… (明治時代、赤羽駅都家の引札より)

春期企画展

ノスタルジア・駅弁掛け紙コレクション ～描かれた名所・名物・名産展～ 観覧無料

■会 期：平成23年3月19日(土)～5月8日(日)

午前10時～午後5時

■会 場：特別展示室・ホワイエ・講堂

■休館日：毎週月曜日(3/21を除く)、3/22

ノスタルジア・駅弁掛け紙コレクション ～描かれた名所・名物・名産展～

当館では多数の大正から昭和時代の駅弁掛け紙（レッテル・ラベル）を所蔵しています。本企画展は、これらの掛け紙に描かれた駅弁の品名や、全国各地のさまざまな名所、名物、名産などを展覧し、描かれた文化表象について説明を施しつつ、近代の鉄道文化の一端を担った駅弁の多彩な魅力を展示するものです。

また鉄道の発達と食の楽しみをより多面的にお示するため、明治時代に創業した老舗駅弁関連企業や個人コレク

ターご所蔵の貴重な資料を交えて、総点数500点近い資料を通じて駅弁の生産と消費をとりまく近代の鉄道文化史を分かりやすくご紹介します。

さらにホワイエではまちおこしの一環として開催されたTOKYO北区ふるさと駅弁コンテストについてもパネル展示いたします。春の飛鳥山散策がたら、ぜひお立ち寄りください。

<関連事業>

企画展ミュージアム・トーク

日時：4月10日(日)

午後1時30分～2時30分

会場：当館特別展示室・ホワイエ・講堂

講師：石倉孝祐（当館学芸員）

定員：各30名（当日先着順）

申込：不要（特別展示室入口にお集まりください。）

※午後1時より整理券を配布します。

<問い合わせ>

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館

TEL.03-3916-1133 FAX.03-3916-5900

月曜休館

URL：<http://www.city.tokyo.jp/misc/history/museum/index.htm>



荻原通弘氏所蔵

ほいす

「昔の道具で思い出を語る」

博物館の収藏品といえば、みなさんは何を思い浮かべますか？多くの方は土器や古文書などを挙げるでしょうが、当館の場合、収蔵庫の大半を占めているのは生活用具などの民俗資料です。地域にとっては貴重な資料なのですが、その数に比して地味な存在であることは否めません。

しかし近年、民俗資料の新たな活用法が注目されています。それは高齢者ケアの現場で広まっている「回想法」においてです。1963年に米国の精神科医が提唱した回想法は、回想が高齢者の認知症予防やQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に有効であるとするもので、回想を引き出す際の素材として古い生活用具などの実物資料が大きな力を発揮します。すでに、愛知県北名古屋市ではいち早く回想法を推進し、大きな成果をあげています。

そして、当館でも3年前から回想法を意識した出張プログラムを実施するようになりました。少集団で継続して行う一般的な回想法に比べ、当館の場合は単発で時間も1時間程度のごく短いプログラムですが、懐かしい道具を前に

した参加者は、生き生きとした表情で次々と思い出を語り始めます。ここでの資料は思い出を引き出すツールに過ぎないのですが、回数を重ねるごとに、回想法は人とともに時間を重ねてきたモノにとって最高の活かされ方ではないかと感じるようになりました。今後も福祉現場の意見を伺いながら、長い目で取り組んでいくべき活動と考えています。（久保瑩）



区内デイホームにおけるプログラム実施の様子

西ヶ原の一里塚に想う

山口 隆太郎 (当館学芸員)

人も街も時と共にめまぐるしく移り変わっていく。当たり前といえば当たり前の話であるが、ともすれば、失われた風景は私たちの記憶の中からも風化し、初めから存在し得なかったかのような錯覚に陥ることもある。

西ヶ原の滝野川警察前の道路に江戸時代の「一里塚」が残っている。一里塚とは、江戸日本橋からの里程（距離）を示すマイルストーンの役割をするものである。国の史跡として指定を受けているこの一里塚には、大正5年（1916）に建立された「二本榎保存之碑」という石碑がある。この碑は、西ヶ原に住んでいた渋沢栄一をはじめとする地元地域の人々の努力により、塚が保存されたことを記念して建てられたものである。当時、東京市は路面電車の軌道延長を行うために、この一里塚を取り壊す計画を立てた。大正4年（1915）3月17日付の渋沢栄一の日記によれば、「王子町及び滝野川町の町民総代数名来りて、電車速通の事に付種々の談話をなす」「3時東京市役所に抵り高橋助役に面会して、（略）電車速通の事、（略）二本榎の事を談ず」と記されている。地域の人々から相談を受けた渋沢栄一が、一里塚を保存しようと早速、動いたことがわかる。後日には、一里塚の由緒書なども市長に対して提出されている。こうした地域住民の努力や渋沢栄一の尽力の結果、路面電車の延長にともなう道路拡幅事業は、一里塚が残される形で実施された。現在の塚をまたぐような線形の道路は当時の人々の強い願いの結実であり、21世紀を迎えた私たちに江戸時代から続く一里塚の姿を残してくれることとなった。

一里塚に限らず、今も区内には、私たちに昔の様子を偲ばせる文化財があちこちに残っている。それらは、道端にある古い道標や庚申塔であったり、街並みの中の古い建物や戦前に造られた鉄道の跨線橋かもしれない。これらから、私たちは、往時の人々の生活や信仰を知る。時として、それは、漠然としたノスタルジアの感覚だけかもしれないが、それでも、私たちは確実に歴史に触れているのである。この感覚は、昔の記録映像などを見て、間接的に感じとるノスタルジアとはまた異なるものである。文化財と向き合う瞬間、私たちはそのものが経てきた時間や歴史的背景がもたらす真実性を感じとるのである。そしてこの真実性こそ、何物にも代えることのできない、「歴史の手触り」なのである。こう考えると、強い意思をもって残された一里塚は、歴史の証拠としての文化財であるだけでなく、街の記憶を守ろうとする地域の人々の意思のシンボルでもあることになる。「二本榎保存之碑」の碑文の中に、「後の人亦諸君の心を以て心となさば庶幾くは此史跡を悠久に保存することを得ん」という言葉が刻まれている。歴史をつないでいくバトンは私たちに渡されているのである。



あるく・みる・きく
Special!

歩け歩け 「あるけおろじー」の歩

東海道という、お江戸日本橋から京の三条大橋に向かう江戸時代の街道というのが一般的に知られているところですが、実はそれよりも900年も昔の古代において、すでに東海道が存在していたということを知る人は少ないと思います。しかも、北区に古代東海道が通っていたとなると、驚きの一言ではないでしょうか。このような北区の地にまつわる知られざる歴史を知ってもらいたく、平成13年(2001)に野外講座「あるけおろじー」はスタートしました。しかも、同じく古代東海道の通っていたと推定される葛飾区にある、葛飾区郷土と天文の博物館との合同企画で行うことになったのです。あれから10年、10回を数えるこの講座の歩みを振り返ってみたいと思います。

「あるけおろじー」って
どういう意味?

この「あるけおろじー」とは考古学をさす「Archaeology(アーケオロジー)」をもじり、「歩く(歩け)」とかけた造語です。この講座は机上の推論ではなく、推定ルートを実際に歩いて実感してもらおうということが狙いで命名しました。

第1回 「古代の道をたどる1-武蔵の国から下総の国へー」 平成13年10月27日(土)・12月1日(土)・15日(土)

豊島郡衙(北区)～北千住(墨田区)～お花茶屋(葛飾区)～柴又(葛飾区)～国府台公園(市川市)
豊島郡衙から下総国府をめざしたルート。江戸川を渡るため、矢切の渡しに乗る。

第2回 「古代の道をたどる2-もう一つの古東海道ー」 平成14年5月11日(土)・6月8日(土)・7月13日(土)

豊島郡衙(北区)～素戔雄神社(荒川区)～立石様(葛飾区)～江戸川河川敷(江戸川区)
豊島郡衙から下総国府をめざすもう一つのルートを検証。古代の道標と思われる立石様を見学。



葛西氏ゆかりの西光寺(第2回)



「あそこが下総国府です!」(第1回)

第3回 「古代の道をたどる3-古東海道を南へー」 平成15年6月7日(土)・21日(土)

橋場不動尊(荒川区)～銀杏岡八幡神社(台東区)・品川(品川区)～鹿島神社(品川区)～大森(大田区)
延喜式にみられるルートを南へ行く。途中、ルートがたどれない箇所は電車移動。鹿島神社付近は大井駅家の候補地。

第4回 「古代の道をたどる4」 平成16年9月23日(祝)・25日(土)

大森(大田区)～洗足池(大田区)～沼部(大田区)～武蔵中原(川崎市)
小高駅家の推定地である武蔵中原付近までをたどるルートを検証。



歩く、歩く、街中を歩く(第2回)



「ポイントはこちらです!」(第5回)

第5回 「古代の道をたどる5」 平成17年11月20日(日)・23日(祝)

大森(大田区)～池上本門寺(大田区)～光明寺(大田区)～新田神社(大田区)
大井駅家から南へ向かうもう一つのルートの検証。

第6回 「武蔵国府周辺の道」 平成18年12月16日(土)・23日(祝)

東山道武蔵路・中世鎌倉街道・国分寺尼寺参道跡・武蔵国分寺・武蔵国分尼寺
武蔵国府周辺で見つかった道をたずねた。

北区にあった! 古代東海道



▲の場所から東をみる



●古代東海道とは

律令社会においては、中央からの命令を地方に、地方の状況を中央にいち早く伝達することが必要となります。そこで、地方の各国をそれぞれ七つの“道”というブロックにくくり、各国府を中継するように道路網を整備しました。道路は直線に造られ、三十里(約16km)ごとに中継地点として“駅家”を設けました。ここを馬に乗った駅使(=情報伝達の任にあたる人)が駆け抜けていったのです。東海道は伊賀国に始まり、常陸国に至りますが、武蔵国は当初、東海道に属しておらず、東山道に属していました。



8世紀末の東海道のルート
豊島駅は豊島郡衙に併設されていました。
(乗漕はアマヌマと読みます)



9世紀～10世紀の東海道のルート
大きくルートが変更されました。

第7回 「古代の道をたどるー武蔵国から下総国へー」 平成20年2月9日(土)・16日(土)

豊島郡衙(北区)～素盞雄神社(荒川区)～立石様(葛飾区)～上小岩遺跡(江戸川区)
原点に戻り、北区と葛飾区を通るルートをたどる。

第8回 「古代の道をたどるー豊島郡衙からアマヌマ駅家へー」 平成21年2月7日(土)・14日(土)

豊島郡衙(北区)～千川(豊島区)～新井薬師(中野区)～天沼熊野神社(杉並区)
豊島郡衙から武蔵国府へ向かうルートを検証。杉並区天沼はアマヌマ駅家の推定地。



鎌倉道を前にして話を聴く(第6回)



ちょっと疲れしました(第5回)

第9回 「古代東海道を武蔵国府へ」 平成22年2月6日(土)・11日(祝)・13日(土)

三鷹台(三鷹市)～深大寺(調布市)～武蔵国府跡(府中市)
アマヌマ駅家から武蔵国府へ向かうルートを検証。天沼(杉並区)から三鷹台(三鷹市)までは全く道を追えないので、スタートを三鷹台(三鷹市)とする。

第10回 「古代東海道を武蔵国府へ」 平成23年2月6日(日)・19日(土)

三鷹台(三鷹市)～武蔵野の森公園(府中市)～浅間山公園(府中市)～武蔵国府跡(府中市)
アマヌマ駅家から武蔵国府へ向かうもう一つのルートを検証。

～平間(川崎市)

大国魂神社(武蔵国府推定地)



あともう一息。多摩川を越える。(第5回)



池上本門寺にて(第5回)



まだまだ道は続きます(第8回)

歩いてみよう! 古代東海道



葛飾区から江戸川区にかけて残る古代東海道です。約6kmあります。

※各講座で踏査したルートマップは博物館の閲覧コーナーでご覧になれます。

もっと知りたい!ちょっと気になるこの一品

私年号板碑

今回は常設展示室の「祈りと願い 板碑と熊野」コーナーにある一番小さな資料に注目してみましょう。福德二年銘板碑です。

「板碑」とは鎌倉時代から戦国時代にかけて造られた石製の塔婆の一種です。とくに関東地方で多く造られ、東京都内でも約1万基の板碑の存在が報告されています。これらの盛んな造立の背景には、争いが絶えなかった中世において、極楽浄土への憧れが社会に浸透したことなどを挙げることができます。

さて、当館の板碑にぐっと近づいてみてくださいね。

そこに刻まれた年号は、「福德二年」。

福德? そんな年号あったかな? 首をかしげる方もいるのではないのでしょうか。それもそのはず、この福德という年号は「私年号」の一つなのです。私年号とは、つまり朝廷の定めた正式な年号ではなく、誰かが勝手に作ってしまった年号ということですね。この福德は中世の関東地方でかなり広まっていたようです。板碑に刻まれた年号に限ってみると、朝廷が定めた年号(延徳)よりも、多く使用された年もあるほど。私年号はこの他にいくつも存在し、いずれも大・福・徳などの縁起の良い文字を使用して

います。きっと時代が良くなるようにと、祈りを込めたのでしょね。暗い世の中を少しでも明るくしたいという想いは、現在と変わらないと思いませんか。

このような私年号が刻まれている板碑は「私年号板碑」と呼ばれ、中世の世情を知る上で重要な資料です。(平澤)



写真にみる
あの日
あの時

「昭和35年(1960)10月2日」

「梶原の渡し」最後の渡し守・阿出川平七さんの勇姿です。タツツケにハラガケを身につけ、頭にはハンチング帽といういでたち。何となくまっています。「梶原の渡し」が廃止されたのは昭和36年(1961)ですので、前年の秋に撮影されたものです。渡し場は隅田川の北区堀船と足立区宮城とを結ぶもので、北区では最後の渡し場でした。写真の背後には宮城の石鹼工場の高い煙突が見え、下流から「第八海運丸」と印された運搬船が通過しつつあります。渡し舟が川の中ほどを横切る一瞬を捉えたものでしょうか。昨年5月に撮影者ご本人から寄贈いただいた貴重なヴィンテージプリントです。

渡し場の歴史は比較的新しく、明治42年(1909)10月に開設されました。当時この辺りは一面水田でしたが、栃木県真岡にある下野紡績株式会社が荒川沿いの堀船に王子支工場を新築しました。工員を対岸の方から多く採ったため、通勤の足として工場のやや上流側、福性寺の裏手に渡し場が造られたのです。高梨輝憲氏の調査によれば、願人は堀船の石井惣吉で当初渡し場は株式会社の形態がとら

れ阿出川・下川・清水といった姓の旧家8軒が世話掛りをしていました。昭和29年(1954)に会社は解散し、その後平七さんが個人で営業するようになったのです。

きりっと引き締まった口元、ロイド眼鏡を通して窺える鋭い眼光の奥には一体何を見据えていたのでしょうか。

(中野)



澤田彰良氏撮影

いにしえからの 贈り物

「古代のガラス技術が時空を結ぶ」

平成21年（2009）11月から昨年5月にかけて、東京都埋蔵文化財センターによって行われた中里峽上遺跡^{なかざとほけうせ}の発掘調査で、奈良時代のガラス小玉鑄型の破片が出土しました。北区では、以前にも豊島馬場遺跡^{としまばんば}での出土例（古墳時代初め）があり、今回の発見は2遺跡目となりますが、全国的にみても20遺跡ほどでしか出土例がなく、大変貴重な発見となりました。

さて、このガラス小玉鑄型とは、ガラス製のビーズを製作するのに用いられたものです。粘土板にくぼめられた多数の型穴のなかにガラスの粉を入れ、加熱して溶かし、ビーズを作ります。類似の鑄型が朝鮮半島でも出土しており、古墳時代の初め頃に朝鮮半島より伝わり、奈良時代頃を最後に国内では使用されなくなったものと思われます。

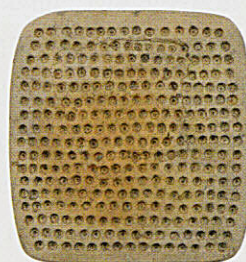
ところが、これとそっくりな鑄型を使用して、現在も西アフリカではビーズを製作していると知り、驚きました。そもそも古代ガラスのルーツはメソポタミアにあると考えられ、周辺地域で発達したその技術はシルクロードを伝わり、日本にたどり着いたものとみられます。日本での鑄型によるビーズ製作は奈良時代で途絶えてしまったようですが、一方で遠く離れた西アフリカでは今もその技術が用いられているのです。

今回出土した鑄型は小さな破片にすぎませんが、過去と現在、そして世界を結ぶ、古代のガラス技術を探るきっかけとなりました。（牛山）

（参考文献：日井洋輔「謎を秘めた古代ビーズ再現—ビーズの孔からのぞいた日本とアフリカ」2007年 吉備人出版）



写真：東京都埋蔵文化財センター提供



参考資料：
豊島馬場遺跡出土
ガラス小玉の鑄型
（復原品）

博物館インフォメーション

●おかげさまで来館100万人！

平成22年（2010）11月末、秋期企画展の会期ももうすぐ終わりを迎えるよという頃、当館では平成10年（1998）3月27日の開館以来、100万人目のお客様をお迎えしました。ご来館くださいましたみなさまに、心より御礼申し上げます。

これからも当館では、多彩な博物館活動を展開していく予定です。今後ともご理解・ご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●北区の昔を伝えるモノ 資料や写真を探しています！

当館では、地域で使われていた生活用品や古い写真など、昔の暮らしが分かる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひ当館（電話03-3916-1133）までご一報ください。



●今日は何の日？「1月26日」

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。この日は、昭和24年（1949）1月26日に、失火により法隆寺金堂壁画を焼損した事件を契機として、昭和30年（1955）に設けられたものです。

当館でも毎年この日を中心に、王子消防署のご指導のもと、消防演習を行っています。今年は“博物館2階湯沸し室から出火”という想定で演習を開始。職員による来館者の避難誘導や、文化財搬出の訓練を行うとともに、



に、消防署員によるタンク車からの建物へ向けた一斉放水、また消火器操作訓練も併せて行いました。

もちろん第一に肝要なのは「火災を発生させないこと」なのですが、備えあれば憂いなし。みなさまが安心・安全に博物館でお過ごしいただくため、また区民共有の財産を焼損から守るため、当館ではいざというときの対応を、常日頃から職員間で共有しよう、心がけています。

春 3～6月

- 春期企画展「ノスタルジア・駅弁掛け紙コレクション 描かれた名所・名物・名産展」(3/19～5/8)
 - ・ギャラリー・トーク「駅弁掛け紙に描かれた名所・名産」(3/19、4/10)
 - ・企画展講演会(3/26)
- 野外講座「新緑の日光御成道をたどり歴史を訪ねる」(4/23)
- 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(4/24、6/12)
- 野外講座「探訪!江戸名所図会の世界を歩く」(5/14・5/15)
- スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5 ☆2011☆」(5/21～6/19)
- 野外講座「王子発!江戸のお稲荷さんを巡る」(5/21・5/22)
- 講座「快読!『吾妻鏡』の世界」(5/28)
- 2011年映像企画「都電の記録」(6/5)
- 講座「快読!『江戸名所記』の世界」(6/11)
- イベント「まちかどコンサート」(6/19)

夏 7～9月

- 上級考古学講座「古代人の造墓理念」(7/3)
 - 講座「快読!『江戸名所花暦』を愉しむ」(7/10)
 - イベント「夏休みわくわくミュージアム☆2011」(7/16～8/31)
 - ・都電/地下鉄車庫見学会
 - ・夏休み☆博物館探検ツアー
 - ・王子の狐シリーズ:きつねのお面を作ってみよう
 - ・牛乳パックで行燈をつくろう
 - ・江戸の3Dおもちゃ絵「たてばんこ」を作ろう
 - ・昔ながらの和綴じでノートを作ろう
 - ・夏休み土器/勾玉/布づくり教室
 - ・「第3回3館まとめてクイズラリー ～めざせ!あすか山クイズ王」 など
 - 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(8/28)
 - 野外講座「建造物でたどる北区」(9/4)
 - 講座「快読!中世熊野参詣記録を読む」(9/18)
 - 特別展覧会「第10回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(未定)
- ※催し物名は仮称、()内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、北区HPをご覧ください。

お知らせ

■資料消毒にともなう臨時休館

収蔵資料を害虫やカビから守る殺虫・殺菌処理にともない、6月下旬から7月上旬の約5日間を臨時休館日とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュース、北区公式HP等でお知らせいたします。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

そとあるき
てるてる坊主に
晴れねがう

学芸員リレーエッセイ
博物館いるは歌留多

当館の事業のウリのひとつに、野外講座の多さが挙げられるでしょう。年3～4回、さまざまなジャンルで、北区にゆかりのある土地を歩いています。長いものでは、その歩行総距離は10kmに及ぶことも!最近では、私も随分と健脚になってきたような気がします。

実は当日を迎えるまでにも、その準備にはなが～い道程があります。まずは地図上で仮コースを設定。その後、実地踏査を行ないます。安全なコースであるか、予定の時間内に歩くことができるか、はたまた適当な休憩場所やトイレはあるか…など。時計と地図を片手に、辺りをうろうろ、きょろきょろ…踏査中の私たちはまさに不審者そのもの?!

このようにして冷汗をかきかき、コースが決定できたら、最後に配布資料を作成し、当日を迎えることとなりますが、どんなに下準備をしてもどうにもならないことがひとつだけあります。それは当日のお天気です。

外歩きの大敵は「風」と「雨」。強風や雨には一気に体温を奪われ、また歩く気力も萎えるというもの。野外講座前夜、我が家の窓際にはずら～とてるてる坊主が並びます。まるで小学校の遠足の前のようだなと思いつつ…やはり最後はついつい頼ってしまうものです。「てるてるぼうず～、てるぼうず～、あ～した天気にしておくれ～」(安武)

利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時

※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】

毎週月曜日

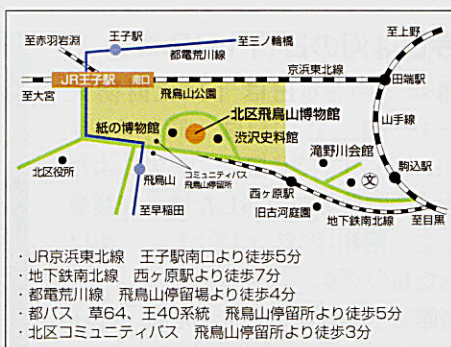
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小中高	100円	80円	240円



- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

編集後記

昨夏の記録的な猛暑により、今春の花粉飛散量は昨年の10倍とも言われています。桜の名所・飛鳥山でも今年はマスク姿の人が急増しそうな予感…。

昨年末、おかげさまで来館者数100万人を突破した当館では、これからもアメニモマケズ カゼニモマケズ カフンニモマケズ!?愛される博物館作りに奮闘します。みなさまのご来館をお待ちしています。(安武)

北区飛鳥山博物館だより
ぼいす 26

発行 平成23年3月20日
 編集・発行 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL.03-3916-1133
 印刷 川口印刷工業株式会社